



最初にお読みください

## CentreCOM® **GS908M/916M/924M**リリースノート

この度は、CentreCOM GS908M/916M/924Mをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

### 1 ファームウェアバージョン 1.6.6

### 2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.6.0 から 1.6.6 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 オンラインヘルプにおいて、以下の項目を修正しました。
  - ・ Help Disable IP のヘルプの表記が正しくない
  - ・ 日本語解説の改行位置が正しくない
  - ・ トピックの表示がアルファベット順ではない
  - ・ SET CONFIG コマンドの書式が正しくない
- 2.2 フラッシュメモリーの容量不足で CREATE CONFIG コマンドが失敗したとき、指定したファイルがすでに存在する場合、そのファイルが削除されていましたが、これを修正しました。
- 2.3 FTP によるファームウェアの転送に失敗した後、再度本製品の FTP サーバーに接続すると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 FTP クライアントでホスト種別を自動判別にした場合、本製品に正しく FTP 接続できないことがありましたが、これを修正しました。
- 2.5 PURGE LOG および FLUSH LOG OUTPUT コマンド実行直後に、SHOW LOG コマンドに TAIL を指定して実行すると、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
- 2.6 SHOW LOG コマンドにおいて、TAIL パラメーターで指定した件数のログが表示されない場合がありますが、これを修正しました。
- 2.7 SNMP マネージャーから、トランクポートをディセーブルに変更する設定をしても、エラーで設定が有効になりませんでした。これを修正しました。
- 2.8 SNMP 有効時、本製品 IP アドレスの設定を変更すると、SNMP へのアクセス、トラップの送信ができなくなりましたが、これを修正しました。

- 2.9 SNMPにおいて、ブリッジ MIB の dot1dStpTopChanges が、正しくカウントアップしませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.10 SNMPにおいて、CPU (=mgmt、通常 port の後) の ifXEntry の ifName が正しく表示されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.11 SNMP コミュニティを登録し、GUI で表示した状態で、DELETE SNMP COMMUNITY コマンドによって削除後に GUI で表示しようとする时报トしていましたが、これを修正しました。
- 2.12 IP アドレスが設定されていない状態で SNMP トラップが送信される状況になるとリポートが発生していましたが、これを修正しました。
- 2.13 STP 有効ポートから COLDSTART Trap が送出されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.14 SNTP モジュールを無効に設定したあと RESET NTP コマンドを実行すると、Last Updated と Last Delta の値が初期化されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.15 Telnet 接続時、RESTART コマンドを実行し、本製品を再起動するかどうかのメッセージ (Do restart system now ? (Y/N):) が表示されたところで、Telnet セッションを切断すると、以後本製品に対して Telnet 接続ができなくなっていましたでしたが、これを修正しました。
- 2.16 SNMP マネージャーにおいて、探索条件として Telnet サーバー機能が動作しているかどうかを確認する (動作している機器に対しては Telnet 接続をする) という指定をして、機器の自動探索を行うと、本製品から Telnet 接続ができなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.17 SET ACCESS FILTER ENTRY コマンドのエラーメッセージでフィルター名が正しく表示されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 2.18 RADIUS アカウンティング機能において、コンソール、Telnet、Web GUI のいずれかによるログイン認証時に、本製品から送出される Accounting-Interim-Update パケットの NAS-Port 属性に不正な値が付与されるため、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 2.19 RADIUS アカウンティング機能有効時、Web GUI でログイン認証を行ったあと、画面の表示更新を繰り返すことによって再び表示されたログイン画面において、ログイン認証に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 2.20 RADIUS アカウンティング機能有効時、Web GUI でログイン認証を行ったあと、CLI からログアウトをすると、CLI でログイン認証が行われていないにもかかわらず、Accounting-Request パケットが送信されていましたが、これを修正しました。
- 2.21 IP アドレスが DHCP に設定された状態から、固定または IP アドレスなしに設定した場合、DHCP クライアントが正常に停止しないことがありましたが、これを修正しました。

- 2.22 デフォルト VLAN 以外の VLAN に所属するポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで ACCEPTABLE パラメーターに VLAN を指定し、設定を保存後本製品を再起動すると、起動時に「Port X does not belong to the VLAN specified」というエラーが表示されていましたが、これを修正しました。
- 2.23 すでにトランキング対象として設定済みのポートを再度トランクポートとして設定した場合のエラー表示が、条件によって異なっていたが、これを修正しました。
- 2.24 タグ VLAN を設定したポートでポートセキュリティーを設定した場合、学習済みの端末からであっても本体への通信は行えませんでした。これを修正しました。
- 2.25 SNMP トラップの送信を有効にした状態で、Telnet 接続により動作モード TRANSIT の EPSR ドメインを有効または無効に設定すると、レポートが発生していましたが、これを修正しました。
- 2.26 DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効にしたポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED パラメーターを正常に設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 2.27 IGMP Snooping において、始点 IP アドレスが 0.0.0.0 で、同一 MAC アドレスの IGMP Report メッセージを複数回続けて受信すると、受信の際にグループのタイマーが更新されませんでした。これを修正しました。
- 2.28 IGMP Snooping のルーターポートとトランクポートが同一ポートで併用されていると、グループ登録後、IGMP Leave メッセージを受信してもルーターポートに転送されませんでした。これを修正しました。
- 2.29 IGMP Snooping のマルチキャスト登録とポートトランキングを併用しているとき、トランクポートをリンクダウンすると、マルチキャストパケットが同一 VLAN 内にフラッディングしていましたが、これを修正しました。
- 2.30 認証ポートの所属 VLAN の設定を変更したとき、レポートが発生することがありますが、これを修正しました。
- 2.31 タグ VLAN を使用している場合、EAP パケット透過時に誤った VLAN ID が付与され、認証が正常にできないことがありますが、これを修正しました。
- 2.32 ポート認証において、サブリカントからの EAP パケットの一部が RADIUS サーバーに転送されないことがありますが、これを修正しました。
- 2.33 ポート認証において、EAP-PEAP 認証で RADIUS サーバーと通信したときにレポートが発生することがありますが、これを修正しました。
- 2.34 ポートトランキングとスパンニングツリープロトコル (STP) を同一ポートに設定している場合、STP をいったん無効にし、再度有効にすると、該当ポートから BPDU が送出されませんでした。これを修正しました。

- 2.35 スパニングツリープロトコル (STP) において、DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定された STP ポートで、物理的なリンクダウン・リンクアップが発生すると、STP ポートの状態が Disabled から Discarding/Learning/Forwarding に遷移していましたが、これを修正しました。
- 2.36 ポートセキュリティが有効なポートに STP を設定した場合のエラーメッセージを、適切なメッセージに修正しました。
- 2.37 スパニングツリープロトコルにおいて、コンポポートの通信速度が 1000Mbps のとき、RAPID モードにおけるパスコストが 200000 になる場合がありますでしたが、20000 になるように修正しました。
- 2.38 Web GUI において、Internet Explorer 8 を使用したとき画面が正しく表示されるように修正しました。
- 2.39 Web GUI において、ログインパスワードに設定された文字列のうち 9 文字目以降がログイン認証に使用されていませんでしたが、これを修正しました。
- 2.40 IGMP Snooping によるマルチキャストグループの登録は 192 エントリーまで可能であるにもかかわらず、Web GUI の「スイッチ設定」- 「IGMP Snooping」画面では、64 エントリーまでしか表示されませんでした。これを修正しました。
- 2.41 Web GUI のポートステータス表示画面において、コンポポートの極性自動切替 (AutoMDI) に「Enable」、極性 (Polarity) に「MDI」が表示されていましたが、コンポポートでは MDI/MDI-X の設定変更はできないため、「Not applicable」が表示されるよう修正しました。
- 2.42 Web GUI の「スイッチ設定 - ポート」画面で「全ポート設定」ボタンによって、全ポートを対象に SPEED=Auto、1000MFull 以外の通信モード、Combo=Fiber-Auto の設定をすると、コンポポートに Speed=1000MFULL と Combo=Fiber-Auto の不正な組み合わせで設定されていましたが、これを修正しました。
- 2.43 Web GUI の「ポート認証 - ポート設定」画面において、Authenticator または Supplicant ポートの設定を行うときに、指定ポートに併用不可機能が設定されているポートが含まれていても、エラーにならずに設定ができていましたが、これを修正しました。(ミラーポート、トランクポート、STP 有効ポート、EPSR リングポートは、Authenticator/Supplicant ポートに設定できません。また、スタティックエントリー登録ポート、ポートセキュリティ有効ポート、コンポポートは Authenticator ポートに設定できません。)
- 2.44 認証済み Supplicant が存在する Authenticator ポートを、Web GUI で所属 VLAN から削除する設定ができませんでしたが、これを修正しました。
- 2.45 EPSR アウェアの Transit モード有効時、Web GUI の「機器監視 - EPSR」画面のリンク (リングを構成するポートの状態) に、Forwarding と Blocking が表示されず、Up と表示されていましたが、これを修正しました。

- 2.46 Web GUI の「機器監視－FDB」の画面項目において、「トランクグループ名 (ID)」を「トランクグループ名」に修正しました。(Web GUI では、トランクグループ ID の指定はできません。)
- 2.47 Web GUI の「機器監視－システム情報」の「詳細情報表示」ボタンをクリックしたときに表示される「システム－詳細表示」で情報が一部欠落していましたが、これを修正しました。
- 2.48 Web GUI において、「機器監視－ログ」-「ログ表示条件」の「表示件数」に「#」を入力して「ログ表示」または「ログ保存」をクリックすると「500 Internal Server Error」が表示されていましたが、これを修正しました。
- 2.49 Web GUI において、Internet Explorer 7 および 8 の設定によっては、ファームウェアの転送に失敗する場合がありますが、これを修正しました。

### 3 本バージョンでの制限事項

---


ファームウェアバージョン 1.6.6 には、以下の制限事項があります。

#### 3.1 フラッシュメモリーの空き容量

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

#### 3.2 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- ファームウェアバージョン 1.4.5 で、ループガード (受信レート検出 / LDF 検出) がサポートされ、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドおよび ENABLE SNMP TRAP コマンドの TRAP パラメーターに STORMDETECTION と LOOPDETECTION の指定ができるようになりました。これにより、バージョン 1.4.0 以前で TRAP パラメーターに ALL を指定している場合、1.4.5 以降へのバージョンアップ時に設定が以下のように反映されますので、ご注意ください。

バージョン 1.3.2 以前で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION が含まれます。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

バージョン 1.4.0 で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド


→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

---


### 3.3 RADIUS サーバー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。

---


### 3.4 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」

DELETE SWITCH FILTER コマンド（または Web GUI の「機器監視 - FDB」）で、登録されているスタティックエントリーの削除を実行すると、削除失敗のエラーが表示されるにもかかわらず、スタティックエントリーは削除されます。

---


### 3.5 スイッチング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート（SFP ポート）に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。  
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

---


### 3.6 EPSR アウェア

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」

ポートの状態が Down から Blocking に変わるときは、ログメッセージを出力しない仕様ですが、ENABLE SWITCH PORT コマンドによって Down のポートを Blocking に変更した場合は、ログメッセージが出力されます。また、Blocking のポートに対して、ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、同じログメッセージが 2 個出力されます。

---


### 3.7 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。  
なお、EPSR アウェアについては、ファームウェアバージョン 1.6.0 で CREATE EPSR コマンドに DELETEMCAST オプションが追加され、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリーを FDB から削除する設定が可能になりました。

---


### 3.8 MLD Snooping


 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

ルーターポートと通常のメンバーポートを同一ポートに設定することはできません。CREATE MLDSNOOPING VLAN コマンドでルーターポート、ADD MLDSNOOPING VLAN コマンドでメンバーポートの登録ができますが、同一ポートに設定してもエラーになりませんので、ご注意ください。

---

### 3.9 IGMP Snooping/MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

- ポートランキングと IGMP Snooping または MLD Snooping の併用時、トランクグループ内で最も番号の小さいポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定すると、トランクグループ内のそれ以外のポートでマルチキャストデータが転送されなくなります。  
ただし、DISABLE SWITCH PORT コマンド実行時に LINK=DISABLE を指定して、該当ポートを物理的にリンクダウンさせると、本現象は発生しません。
- IGMP Snooping のマルチキャストグループ登録とスイッチフィルターを同じアドレスで設定後、スイッチフィルターの設定を削除すると、IGMP ルーターポートへマルチキャストが転送されなくなります。MLD Snooping の場合も同様です。

---


### 3.10 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

SET RADIUS コマンドで DEAD-ACTION=PERMIT、DEADTIME=0 を設定した場合、認証に失敗することがあります。

---


### 3.11 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」**

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

---

### 3.12 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- 存在しない RADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。  
本現象は、CLI では発生しません。
- 「セキュリティー設定-ポートセキュリティー」において、「全ポート変更」ボタンからセキュリティーモードを設定しようするとエラーが発生します。全ポートのセキュリティーモードを設定するには、「ポート一覧」からコンボポート以外のポートを選択して「変更」ボタンで設定するか、SET SWITCH PORT コマンドを使用してください。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。

- 「マネージメント→ポートリセット」画面において、通信速度が 10Mbps または 100Mbps のトランクポートを複数ポート指定してリセットした場合、link-down/link-up を検知できず、link-down、link-up メッセージが表示されない場合があります。10Mbps または 100Mbps のトランクポートのリセットを実行する場合には、Web GUI ではなく、コンソールまたは Telnet 接続からコマンドで実行してください。

## 4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

---

取扱説明書、および「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」の補足事項です。

### 4.1 FAULT LED の点滅条件

 **「取扱説明書」24 ページ**

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、FAULT LED の点滅条件が、以下のように変更になりました。

- **1 回点滅：**  
(約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返す場合)  
本製品起動中、またはフラッシュメモリーに書き込み中  
(点滅と点滅の間の消灯時間が約 2 秒間の場合)  
ファンの異常発生時
- **3 回点滅：**  
電圧の異常発生時
- **6 回点滅：**  
内部温度の異常発生時

### 4.2 サポートする MIB について


 **「取扱説明書」108 ページ**

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、ブリッジ MIB に対応しました。これにともない、「本製品の仕様」の「サポート MIB」に、ブリッジ MIB (RFC1493) を追加します。

### 4.3 ポート認証 / EPSR


コマンドリファレンスに記載がありませんが、ポート認証の Authenticator ポートと Supplicant ポートを、EPSR のリングを構成するポートにすることはできません。

### 4.4 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

SNMP を使用して、Telnet や FTP などのサービスの Listen ポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合 (たとえば Telnet に FTP のデフォルトポート番号である 21 を設定した場合)、再起動後にその設定が記憶されません。

### 4.5 SNTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNTP」**

登録された SNTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態



で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

---

## 4.6 IP

### 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

---

## 4.7 スイッチング

### 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、バッファのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。
- リンクアップしているポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに現在の通信モードと同じモードを指定してコマンドを実行すると、対向機器のポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合に限り、本製品の該当ポートがリンクダウンします。
- オートネゴシエーションでリンクしている 1000M 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000M Full Duplex 固定に変更する設定を行っても、リンクダウンは発生しません。
- イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティによってスタティックエントリとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスに持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。
- EAP 透過機能有効時に、タグ付きポートから送出される EAP パケットにはタグが付与されます。

---

## 4.8 ポートミラーリング

### 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。
- ソースポートから送信される EPSR 制御パケットは、ミラーリングされません。

---


## 4.9 パケットストームプロテクション

### 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

---


#### 4.10 ループガード (受信レート検出)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

---


#### 4.11 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMP Snooping TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛での Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。

---


#### 4.12 MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

IPv6 マルチキャストアドレスと一致した MAC アドレスのパケットを受信すると、マルチキャストグループとして登録してしまうことがあります。

---


#### 4.13 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Suppliant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Suppliant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。
- Multi-Suppliant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Suppliant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

---

#### 4.14 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

コマンドラインインターフェースと Web GUI の同時操作は未サポートです。コマンドラインインターフェースを使用している場合、コマンドの実行が完了したあと、Web GUI の操作を行ってください。

---

### 5 未サポートコマンド

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

**SET HTTP SERVER PORT**

**SET SYSTEM LANG**

**ENABLE QOS**

**DISABLE QOS**

SHOW QOS

RESET PORTAUTH PORT

## 6 コマンドリファレンスについて

---

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パートナンバー「J613-M0220-03 Rev.F」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>